

個別課題: 外来通院中患者の疼痛・緩和ケア外来初診数の増加  
(令和元年7月1日～12月末日)

施設名:	Plan (計画)	Do (実行)	Check (評価)	Act (改善)
50 大阪警察病院	外来通院中患者の疼痛・緩和ケア外来初診数の増加 (2018年度7月1日～12月31日実績:26名) 目標:40名	①外来化学療法センターとの連携の強化を行い、がん患者症状スクリーニングの徹底を図る。 ②経過観察で通院中の患者に対してのがん患者症状スクリーニングの徹底 ・各外来での取り組み状況 取組件数の把握 ③各科外来と認定看護師の連携 ・外来患者ケアや症状コントロールに関する困りごとの把握、適宜カンファレンスの実施 ・疼痛・緩和ケア外来受診のタイミングの看護師への説明の実施 ・各科外来看護師が患者へ説明する際のポイントの指導 ④緩和ケアパンフレット・患者相談窓口パンフレットの活用 ・各科外来及び外来化学療法センターでの使用の推進	外来においてスクリーニングの説明を行うことで、外来化学療法室だけでなく各科外来でのスクリーニング実施件数が増加した。  また、スクリーニングで介入が必要と思われる患者に関しては、外来受診時に認定看護師が介入することを徹底し、外来通院中に必要時は疼痛緩和ケア外来を受診することを促している。  2019年4月～12月の疼痛緩和ケア外来新規依頼患者は39名であり昨年度より増加している。  がんと診断された時から緩和ケアを受けることができるよう、緩和ケアパンフレットや患者相談窓口のパンフレットの活用方法を今後も推進していく必要がある。	緩和ケアパンフレット、相談窓口パンフレットの使用状況の確認を行い配布の徹底を図ることが必要。